



産業革命と情報革命 (5月のごあいさつ)

平成27年5月1日(金)

沖縄では雷が鳴り、稲妻が走れば夏が来たという感じです。

産業革命を代表する言葉は**オートメーション**である。

米国のフォードのオートメーション部の設置から広く使用され始めたという。生産・サービス・事務などにおいて、人間の作業を機械で置き換えて、連続化・自動化する。一つの基本パターン、プロセスとして技術と作業の生産性を高める工夫ともいえる。

オートメーションは、労働生産性の向上、労働環境の改善、新しい雇用の増大などをもたらし、**マネジメントは人の管理を通じて生産性の向上を図ることができた。**

しかし反面において、それは人間と機械の競争のはじまりであり、人間労働に代替する無人システムの脅威的技術や人間を超えるとも思える機械的正確さは恐怖を感じるほどである。

産業革命がオートメーションに代表されるように、**情報革命**にはインターネットやIT(情報技術)という言葉が当てはまる。

今日のマネジメントは、IT という迫り来る情報革命により、その能力を試されるとともに、重大な課題に直面させられているように思える。

それは、オートメーションの高度の発展段階と考えられないこともないが、生産現場やデザイン、設計、更には通信、流通のIT化に及んでおり、21世紀の社会ニーズの加速化、変化に代表される情報革命という現象である。従来の常識を超えた、**ビックデータやアマゾン**に見られる古い習慣や制度を打破する現象である。

そして、忘れてはならないことは、**高齢化社会の到来**である。

高齢化社会とIT革命はともに、すでに起こった未来ではなかろうか。人間と情報に起こった**強烈なインパクト**である。

一方は、社会の活動の衰退につながり、もう一方は、**距離を消し去るスピード、大量、広範囲、国境を超える同時処理**などSF小説にあるような激動である。このような社会環境の変化に対してマネジメントは如何に対処すればよいのか。

マネジメントは、この要否を含めた大変化への対応が要求される。高齢化とIT(情報技術)時代には組織の生産性をあげる方法の**一大転換**が必要になる。

高齢化は歴史的必然なのか。ITとはオートメーションと同様な**一つの概念体系**なのであろうか。これらには、対応可能な一つの基本パターンがあるのであろうか。

今日、高齢化とITの影響を無視しては、マネジメントの特質を論ずることはできない。高齢化もITも、津波のように一挙には来ないが、確実にやってくる。高齢化とITを理解し、企業として体系的に適応できる組織が、その生産性と富においてリーダー的な地位に立つことができるのではなかろうか。